

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075100273		
法人名	竹井不動産 有限会社		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地	〒811-4203 福岡県遠賀郡岡垣町内浦955 - 1		093-282-7901
自己評価作成日	平成25年08月06日	評価結果確定日	平成25年09月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シダプル協会
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 093-582-0294
訪問調査日	平成 25年08月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆様方が住みなれた地域の中で、明るく元気に過ごせるよう、それぞれの能力に応じた自立の支援を行い、一人ひとりの心身の特徴を踏まえた適切な介護を提供しています。岡垣町の西部地区と言う海と山に囲まれた風光明媚な立地を生かし、季節を感じていただけるよう積極的に戸外へ出て行かれるように工夫しています。健康に生活できるよう、かかりつけ医や協力医療機関との連携に力を入れています。常日頃から健康状態の把握に努め体調の変化を早期に発見することで、たとえ入院治療が必要となっても早期退院ができるよう病院との連携に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

桜並木の参道が続き、響灘の青い海が展望出来る丘の上に、2ユニットのグループホーム「ひまわり」がある。利用者の能力に合わせた自立支援を目指し、職員は、利用者の目線で、介護サービスを提供し、利用者の心を開き、家族から「ひまわりを選んで良かった」という深い信頼に繋がっている。地域の行事に、近隣住民と一緒に参加したり、小学校の体験学習を2日間受けた後、ホームの行事に家族やボランティアが参加し、開設10年を迎え、地域交流の輪が広がっている。また、利用年数が5～10年の長い利用者が8人居て、ホームの暮らしに馴染み、入居時に比べ、生き生きとした表情は、家族の驚きと、感謝の気持ちに結び付き、かかりつけ医と、往診が出来る協力医療機関の連携が図られ、利用者の健康管理は、安心して任せられる体制が整っている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+) です。〕

自己 外部		項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共 有して実践につなげている	職員が見やすい場所に理念を掲示している。 日々のケアに生かしている。	ホーム理念の「自立支援」と「適切な介護」を掲示し、 職員が常に理念を意識し、利用者一人ひとりの心身 の状態を把握し、残存能力に合わせた自立支援に取り 組んでいる。利用者の介護が、一人ひとりに必要な 事を皆で考え、手を出し過ぎない、見守りを大切に したケアの実践に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられ るよう、事業所自体が地域の一員として日常的 に交流している	地域の祭りや敬老会などの送迎などを協力し おこなっている。	地域の行事に利用者と職員が参加し、敬老会や祭り の時は、地域の方の送迎を手伝う事もある。小学5年 生の仕事体験受け入れや、クリスマス会には職員 の子供や小中学生が手伝いに来てくれたり、ボラン ティアによる三味線やカラオケで賑わい、利用者にと って笑顔溢れる楽しい交流の場となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知 症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	岡垣町社会福祉協議会と連携し地域の集会 などに参加し場合により講師の派遣をしてい る			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告や 話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上 に活かしている	地域の代表と連携し、地域の防災組織に組み 込まれている。	会議は、行政職員、家族の参加はあるが、地域代表 の参加が少ない為、管理者は派出所の警察官や薬剤 師に声を掛けているが、今のところメンバー増員に は繋がっていない。会議では、報告事項の他に、「食 事提供の為に取り組み」の話をする等、内容を工夫 している。今後は、他事業所の管理者との相互参加 等、委員増員に向けて検討している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取り組みを積極的 に伝えながら、協力関係を築くように取り組んで いる	町役場の福祉課担当者からは電話やFAXで 様々な研修や講演の情報提供をいただいで いる。 岡垣町社会福祉協議会と連携し講師の派遣 も行っている。	行政担当窓口と、電話やファックスで情報交換し、 ケースワーカーとも連絡を取りながら協力関係を築 いている。社会福祉協議会とは、講師派遣を行う等、 連携を密に取っている。また、運営推進会議に毎回 行政職員の参加があり、ホームの実態を理解して もらうと共に、アドバイスや情報提供を受けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指 定基準における禁止の対象となる具体的な行為」 を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて 身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない介護について十分に理解を 深め、緊急時であっても創意工夫し短期間の 身体拘束であるよう努めている。	身体拘束廃止マニュアルを整備し、職員は言葉の 拘束を含め、身体拘束が利用者に及ぼす影響につ いて、事例を含めて検証し、職員全員が理解を 深め、利用者の安全な暮らしを支援するための、 身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所 内での虐待が見過ごされることがないように注 意を払い、防止に努めている	管理者会議やユニット会議では高齢者の虐 待防止を念頭に利用者の処遇や環境整備を 話し合っている			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を用いて管理者が介護職員に説明している	現在該当者はいないが、管理者は、資料やパンフレットを用意し、職員に説明している。利用者や家族が制度を必要とする時は、内容について説明し、何時でも関係機関に繋ぐ体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書および重要事項説明書を基に十分な説明をおこない、しっかりと理解をいただき署名捺印していただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内の目立つところに『ご意見箱』を設けているが、投書にて意見が寄せられたことは無い。意見や要望は職員が直接受け付けることが多く個人の問題以外は運営推進会議や運営報告書で伝達している。	家族面会や、運営推進会議、行事参加の時に、親しく話す機会を作り、意見や要望を聴き取っている。また、話す機会の少ない家族にも、毎月担当職員が手紙で利用者の暮らし振りや健康状態を報告し、管理者が電話で家族の意見を聴き出し、ホームの運営や利用者の介護サービスに反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回全体会議を実施、毎月運営会議を開催して事業者と職員の意識の統一を図り、各ユニット毎の会議で意見交換を実施している。	年に2回、全体会議を実施し、その他はユニット毎に職員の意見や提案を聴く機会を設けている。代表や管理者、職員の意識を統一するために、職員の意見や要望が出しやすい雰囲気を作り、出された意見は出来るだけ反映出来るように努力し、職員のやる気に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の能力や性質を考慮して職員配置している。労働時間は職員の希望に合うように配慮している。 スキルにより介護職員処遇改善加算の一時金配分を区別している		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	充分に配慮している。	職員の採用は、年齢、性別、資格の制限はなく、気配りの出来る人を優先している。採用後は、新人研修を時間をかけて行い、勉強会で知識を共有し、介護技術の向上を図っている。また、希望休は100パーセント叶えるように努め、勤務シフトに関しても柔軟に対応し、働きやすい就業環境に取り組んでいる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権意識を高める標語を掲示し、常に意識を持って業務にあたっている	台所等、目につく所に、職員が率先して人権尊重を意識付けするための言葉を掲示している。利用者が安心して暮らせるための介護の在り方を常に意識し、利用者の尊厳を守り、生きがいに繋がる暮らしの支援に取り組んでいる。内部で接遇の研修は実施しているが、今後は、外部研修にも参加していく予定である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの 実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける 機会の確保や、働きながらトレーニングしていく ことを進めている	採用時にはそれぞれの技量に沿った研修期 間を設け、専門知識を深めるための勉強会も 実施している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する 機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互 訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上さ せていく取り組みをしている	岡垣町福祉施設連絡協議会に参加し、講習 や交流を持っている。 町内のグループホーム同士で職員の相互交 流（見学実習）を行っている		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本 人の安心を確保するための関係づくりに努めて いる	入居前に面談を行い、入居予定者の思いや 意向を聞き入れ入居直後の不安感の軽減を はかるようにしている。 出来るだけ要望を受け入れるようにしている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困ってい ること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、 関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、入居者にとっての家族 や家の有り方について理解を深めてもらい、 協力体制を築いている。 出来るだけ要望を受け入れ安心してサービス の利用をしてもらっている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が 「その時」まず必要としている支援を見極め、他 のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談が有った時は、他の医療・介護 サービス利用の有無を確認し、担当者とサー ビスの継続も含め相談している。 必要なときは岡垣町の高齢者相談センター及 び地域包括支援センターと連携している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、暮らしを共にする者同士の関係を築いてい る	介護を与えていると言う立場にならないよう に注意し、掃除や片付けなど入居者自身で出来 ることは自分でしてもらっている。 自己判断が難しい方でも見守り助言をおこ なっている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本 人を支えていく関係を築いている	入居前の面談で、入居者にとっての家族や家 の有り方を理解していただき、それを利用す ることで安心して施設での生活が継続できるこ とを説明している。 近況報告書にて毎月状況を報告している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の時間を制約していない。また、外出・外泊は入居者の状況に応じて随時出来るようにしている	近所の友人が訪ねて来たり、ボランティアで踊りを舞いに訪問される知人等に、職員は、お茶等で接待し、ゆっくり歓談出来るよう配慮している。また、誕生日やお孫さんの卒業式等の機会に自宅に帰ったり、買い物好きの利用者のために個別に買い物を検討する等、馴染みの人や場所との関係が継続出来るよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	聴力が弱い利用者にはスタッフが談笑の間に入りコミュニケーションの橋渡しをしている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退所した場合でも洗濯やその後の施設変更などの相談を受けている		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ希望に沿うような介護計画を立て、それに則ったケアを実施している	管理者は職員に、「利用者の状態をよく見て下さい」と常に話し、観察して気づいた事を伝え、共有し合い、利用者のペースを第一に考えた、利用者本位の介護サービスの実践に取り組んでいる。また、意向表出の困難な利用者には、職員が寄り添い、表情や独り言をキャッチし、利用者の思いや意向に近づく努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に得た情報と、日々の暮らしの中で得られた情報を組み合わせ、利用者へのサービス提供に生かしている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族や入居前に利用していた介護サービスから情報を集め、日々の観察を生かし状態把握につとめている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族・本人を含め、介護にかかわるスタッフからの様々な意見を取り入れ工夫し作成している	利用者の思いを聴き取り、家族の意向については、面会時や管理者が自宅を訪ねて聴き取り、カンファレンスやモニタリングを通じて、利用者一人ひとりに合わせた介護計画を3～6ヶ月毎に作成している。利用者の状態が変わった時には、家族や関係者と密に連絡を取り、介護計画をその都度見直している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護状態に変化があった時はそのつど介護計画を見直している		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時間の制限を設けず、外出外泊も比較的自由に出来るよう配慮している。家族に送迎の車両が用意できない場合でも、事業所側で送迎するなどそれぞれの状況に合わせ、柔軟に対応するよう心がけている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元民生委員や自治会の代表に運営推進会議へ参加を委託している 敬老祝賀会などの大規模な行事には地区の公民館を活用している		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医に定期的に受診できるように、介護スタッフが同行している かかりつけ医の往診も受け付けている	利用者の入居前からのかかりつけ医の受診を支援している。職員が同行し、結果を家族に報告して、利用者の医療情報を共有している。協力医療機関による定期往診と、同行の看護師に相談出来る体制を取り、訪問歯科の活用と合わせ、充実した医療連携体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は常勤していないが、協力病院の看護師の訪問を受け入れたり、気安く相談が出来るように日頃から連携を持っている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の地域連携室と頻繁に連絡を取り、入退院や初診の相談を常におこなっている また、病院と家族のカンファレンスに同席し早期の退院に向けた提案をしている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病気や高齢化に伴う身体状況の低下について、日ごろから十分に観察し、状況を家族に報告し必要があれば医療機関に連絡し入院や訪問看護の受け入れを行っている	契約時に、利用者や家族にホームで出来る支援について説明し、了承を得ている。利用者の状態変化に合わせ、家族と常に話し合い、意向を確認し、今後の介護方針を関係者で共有し、主治医の意見を参考にして、入院や訪問看護の受け入れ等、利用者の重度化に向けた支援体制を確立している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度救急救命講習を受けている		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災組織に加わっている 非常災害時には屋外に設置したサイレンが鳴動するので、地域の方々に応援いただけるようお願いしている	年2回、マニュアルに基づいて、新館、本館の役割を確認しながらの避難訓練を実施している。非常ベルが外でも鳴るようにして、「ベルが鳴ったら駆けつけて下さい」と近所の方に日頃からお願いしている。訓練後は、消防署に実施の報告を行っている。	消防署の協力と参加を得て避難訓練の実施が望まれる。お米等の備蓄は多少あるが、災害時に備えて、非常食、飲料水等の備蓄の準備をお願いしたい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いには十分注意し、親しさの中にも礼儀をもってコミュニケーションをとっている	利用者と職員は、家族のような親しい関係ではあるが、礼節を重んじた介護サービスの提供を心掛けている。プライバシーに配慮した移動の在り方を学ぶ等して、利用者のプライドや羞恥心に配慮した取り組みがある。また、個人情報の保管や、職員の守秘義務については、徹底が図られている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出の際の洋服や、誕生会の内容を利用者本人から意見をもらい取り入れている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の決まりは有るが、利用者個々のペースに合わせ生活できるように配慮している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えを準備するときには、利用者本人に選んでいただけるよう促している 車椅子利用者でも身だしなみを整えられるように洗面台を工夫している		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しいものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器や盛り付けを工夫している。 状況により盛り付けの手伝いもお願いしている。	利用者の残存能力に合わせ、料理の盛り付け等を職員と一緒にこなしている。食事は利用者の楽しみの一つであるので、職員は「何か食べたい物はありますか？」と常に尋ねながら献立を考え、利用者に喜んでもらえるよう愛情を籠めて食事作りに取り組んでいる。また、検食を実施し、味、量、形態、彩り等をチェックし、食事を楽しめる工夫をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分補給量を記録し、自力摂取が難しい利用者には介助をしている。 自立している利用者にも頻繁に声をかけし、新聞記事などを利用して水分補給の大切さを感じてもらっている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの状況に応じた口腔ケアを実施している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状態や頻度を一元的に管理し、出来るだけトイレで排泄できるように注意している	職員は、利用者の習慣や排泄パターンを把握し、プライドや羞恥心に配慮した、早めの声掛けや誘導で、失敗の少ないトイレでの排泄の支援に取り組んでいる。また、夜間も夜勤者によるトイレ誘導や、ポータブルトイレの使用で、紙おむつの使用軽減に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ薬に頼らず、食事や水分補給・腹部マッサージなどで自然な排泄を促している 薬を使う際もかかりつけ医と連携し最小限にとどめている		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日風呂を沸かしているが、一日の入浴者は3～4人になるよう日割りで振り分けている 突発的な汚染や、希望によりいつでも入浴できるよう心がけている	週3回の入浴を基本とし、一日の利用を3～4人として、利用者にゆっくりと入ってもらえるように心掛けている。利用者の希望で毎日入る事も可能で、入浴拒否の利用者には、職員を替えたり、タイミングを変える等して声掛けし、本人の意思を尊重した入浴の支援に取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室がゆっくりと寛げる場所になるように配慮している。 夜間の睡眠状況や体調を考慮して、穏やかな声かけにより臥床を促している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の服薬ファイルを作成し管理している。 介護スタッフは個々の診療状況や病状を把握できるよう受診記録を活用している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の能力を見極められるようにして、それぞれの力が発揮できるようにしている。 計算問題を解いたり・散歩・習字・カラオケ・軽運動・ゲーム大会などを実施して誕生会などで外食を実施している。		
51	2 1	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	季節に応じた外出や、誕生日会などはその当事者や他の入居者と話し合って希望に沿うよう工夫している	緑に囲まれた自然環境の中、響灘の青い海が眺望できる散歩コースにはベンチが置かれ、利用者が座って景色を見ながら季節を感じる事が出来る。年に6回は外食に出かけ、家族の協力で個別に美容院、外食、自宅に帰られる方もいる。また、新館、本館合同の外食会の定期実施を検討中である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	状況に応じ対応している 現金の所持は無くなっても困らない程度の金額にしてもらうよう家族・利用者本人と話し合っている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節によって家族や知人に手紙を出せるよう、習字の時間や余暇活動を生かしている		
54	2 2	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	本館リビングの壁は珪藻土を使い臭気や湿度の調整をしている、暖かく穏やかな雰囲気照明を使い華美にならないようにしている 季節ごとの壁面飾りをしたり、わかりやすいカレンダーを掲示している	利用者と職員による手作りの季節毎の掲示物や卵の殻を使った貼り絵、習字の作品等が廊下に飾られ、木目を基調とした室内は家庭的で温かい雰囲気である。天井が高い広々としたリビングルームは、利用者と職員の笑い声で賑やかである。また、各所に利用者の安全に配慮したバリアフリーを設置し、安心して安全に暮らせる共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを適宜に配置し、ゆっくりと過ごせるようにしている 利用者の状況に応じ臨機応変に座席配置を工夫している		
56	2 3	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や、写真を飾っても生活に支障が無いように居室は十分な広さを確保している	広い居室には、利用者が自宅で使用していた馴染みの家具やベッド、仏壇や机、家族の写真等持ち込んでもらい、自宅と違和感のない雰囲気、居心地の良い居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	花瓶や入居者の作品の展示方法を工夫し安全に移動できるようにしている 状況に応じ手すりを増設している		